

令和6年度一般入学試験問題 国語・小論文

(三の一)

○次の文章を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合上、文章を改変した箇所があります)。

人生、イヤなことがあると映画「男はつらいよ」を観るのが、筆者の習慣である。温かな寅さんの人情にふれるためだ。寅さんは困っている人を見ると助けずにはいられない。ただ、空気を読まずに相手とギクシャクしてしまうことも多いが、そこが愛すべき寅さんのミリヨグだ。

恋多き寅さんは、自分が好かれていると勘違いして、最後はマドンナにふられてしまう。逆に、マドンナに好かれてしまうこともあるのだが、ラストシーンは切ない別れだ。柴又駅での竹下景子(三三作目「口笛を吹く寅次郎」)や江ノ島でのいしだあゆみ(二九作目「寅次郎あじさいの恋」)との別れに思わず涙ぐむ。俺のようなヤクザにはふさわしくない、いつものように寅さんは旅立ってしまう。顔かたちは違っても映画「カサブランカ」のハンフリー・ボガートのように、そんな寅さんを「カッコイイ」と思うのは、筆者だけだろうか。

漫画「ONE PIECE」に登場する人びとのつながりを卒論で論じた学生がいる。「ONE PIECE」は、これまで二億冊(二〇一一年二月現在)も発行されている尾田栄一郎による人気漫画だ。そのなかで、主人公の海賊ルフィは、「ひとつなぎの大秘宝(ワンピース)」を探すために仲間たちと助け合う。ただ、「助けて」と乞われるまで「見て見ぬふり」をするが、相談を受けたからには助けるのは「当たり前前」というのがルフィの心情だ。見て見ぬふりをするのは、あまり良いこととは考えられていない。しかし、人にはさまざまなナヤミがあつて、そこに土足で踏みこむようなことはしたくない、というのが若者気質であり、相談されるまで待つことが、若者にとって「カッコイイ」と論じている。

時がたち、つかず離れずのつながりが現代のメジャーになっても、ケツキヨク、相手の心を慮ることが世代を超えて「カッコイイ」と思われるのではないか。筆者には、それが理想の「リア充」に思えてならない。

令和6年度一般入学試験問題 国語・小論文

(三〇二)

ただ、現実にはプライドもあって「助けて」とはなかなか言い出しにくいし、実際に助けてと言われれば必ず助けるといふ人は少ない。助けてと言われなくても助けようとする寅さんのような人は少なくなっただけで、未来の若者には広大なネットがある。彼らにとってネットとリアルの境界はないのだ。

二〇一一年冬、エジプトのムバラク政権は、若者たちのFacebookの力も手伝って、^キ瞬く間に崩壊してしまった。次の日に放映されたNHKテレビ「無縁社会」の討論番組（二〇一一年二月十二日放映）では、スタジオより「^クwillerのほうがカツパツな議論が行われていた。

世界中に広がるネットのなかに大勢の仲間がいる。そんな仲間たちが互いに助け合う世の中になるような気がする。楽観的と言われるかもしれないが、若者たちと暮らしていると、そんな明るい未来を感じるのである。

（小川克彦『つながり進化論』中央公論新社 二〇一一年）

問一 傍線部ア～クのうち、カタカナは漢字に、漢字は読み仮名にしなさい。

問二 二重傍線部「楽観的」の反対語を漢字で書きなさい。

問三 人とのつながり方について、寅さんとルフィの共通点・相違点を述べなさい。

問四 あなたが考える「つながり」について、四百字以内で具体的に論じなさい。